

# 2021年度～式下中学校 スクールビジョン

## A 目指す姿

### ☆目指す学校像

- 生徒が安心して通える学校
- 教職員にとって働きがいのある学校
- 保護者の皆様が通わせてよかったと思える学校
- 地域の皆様から応援していただける学校

### ☆目指す生徒像

自他のしあわせを実現するために、「心・技・体」を合言葉に、支え合い・高め合う生徒の育成を目指す。

- 強 く一寄り添い、包み込む姿
- 正しく一信念に基づいて行動する姿
- 明るく一なかまを思う心(=安心=明るさ)と意欲をもって活動する姿

### ☆目指す教師像

生徒の可能性を信じ、努力を認め、励まし、よりよい方向に導く教師

## B 目的

全ての学びは自他のしあわせを実現するために

心 = 人間性 = 心(しん)の「し」

- ① 自他共に大切に基本の心
- ② なかまを大切に優しい心
- ③ “一生懸命”をたたえ合うあたたかい心
- ④ 周囲の人々への感謝の心

目に見えない豊かさを育てる

技(ぎ) = 人生に役立つ力 = 基礎・基本(きそ・きほん)の「き」

- ① 時を隔てても生かせる基礎・基本の力
- ② 表現力(説明力) = 受け止め伝え合う力 = 感謝のメッセージを送る力
- ③ 家庭学習力 = 自学自習力

自他のしあわせ

||  
補い合い、  
認め合う関係

体(たい) = 健康 = 元気(げんき)の「げ」

- ① 自他の健康と安全を重んじる
- ② 芸術・文化・スポーツへの感動と創造
- ③ 部活動を通じての学び
- ④ 読書を通じての学び

目に見えない力(意欲・関心・感動、やり抜く力)を育てる

## C 今年度の努力点

- ① ① どの子ども安心してすごせる居場所づくりに取り組む。
- ② ① 互いの想いを受け止め合えるなかま集団づくりに取り組む。
- ③ ① 生徒のがんばりやよさを認める働きかけの機会を増やす。
- ④ ③ 生徒の疑問に答える授業スタイルを確立し、基礎・基本の定着を図る。
- ⑤ ③ タブレットPCやデジタル教材・視聴覚教材を積極的に活用し、わかりやすい授業を追求する。
- ⑥ ③ 特別支援教育の工夫・充実に努める。
- ⑦ ③ タブレットPCを活用し、家庭学習に向かう意欲を高める取組を進める。
- ⑧ ⑦ 生徒の自主性が発揮できる特色ある行事運営に努める。
- ⑨ ⑦ 部活動を通じての学びを応援する。部活動指導員を活用した部活動支援・活性化を進める。
- ⑩ ⑦ 読書活動を推奨し、文化施設へ足を運ぶ生徒を育てる。

## D 授業(教科・特活・総合)

- ① 分かりやすくきめ細やかな授業、そして、得意になる授業を目指して添削、コメント、助言等を励行します。
- ② タブレットPCやデジタル教材、視聴覚機器を積極的に活用し、生徒の疑問に丁寧にこたえるわかりやすい授業、「できた!」を実感できる授業を工夫し、「技としての学力」を育てます。

\* 技としての学力 = 時を隔てても、生かせる基礎・基本の力のことを言います。

- ③ 少人数授業や補充学習のあり方を工夫し、効果の検証を行います。
- ④ 総合的な学習の時間では、主に、下記のテーマについて取り組みます。

1年 ふるさと学習  
キャリア教育  
ボランティア活動

健康安全教育  
2年 社会見学  
反戦平和学習

キャリア教育  
職場体験学習  
健康安全教育

3年 修学旅行  
幼児とのふれあい体験  
キャリア教育  
健康安全教育

- ⑤ 学年に応じた進路情報を提供し、キャリアパスポートを活用したキャリア教育で目標を持てるようにします。
- ⑥ 今の時代に必要情報リテラシーを強化します。
- ⑦ 科学への関心をよびおこします。

①～⑦に取り組むことで基礎・基本の力を育みます。

## E 自他を大切にできる感性をもった生徒を育てるために

- ① 人権教育……一つのことを1年間大切に。多様な人々との出会いから学び、「違いが豊かさに」を学校の軸に据える。
- ② 道徳教育……人との出会いを通して心を耕し、『よりよく生きる』ことを追求する生徒を育てる。
- ③ 生徒指導……集団の一員としての自覚を高め、「いじめ」のない集団生活を送れる生徒を育てる。
- ④ 特別支援教育……生徒の実態と保護者の願いをふまえ、特別支援学級生徒がなかまと支え合う関係の中で安心して学べる環境づくりに努める。
- ⑤ 朝読の継続と読書活動の推奨……学校司書との連携
- ⑥ ボランティア活動の継続
- ⑦ 食育の充実

自他を大切にできる感性をもった生徒を育てるために、①～⑦の教育や活動に取り組みます。

## F 地域との連携

- ① 教科(ゲストティーチャー)  
社会…租税教室、音楽…邦楽指導、家庭…絵本読み聞かせ、幼児とのふれあい体験
- ② 職場体験学習(学校周辺事業所)
- ③ 特別支援学級及びボランティア部による菜園活動
- ④ 生徒会花苗植替活動(石見フラワーチーム)
- ⑤ あいさつ運動(磯城地区保護司会他)
- ⑥ 地域美化ボランティア活動(大和磯城ライオンズクラブ他)
- ⑦ PTA行事、地域行事への協働・参加  
川西町オリンピック・パラリンピックホストタウン事業、三宅町野球グローブ生産100周年事業への協力

①～⑦の学習や活動を通して、保護者・地域の信頼と協力を得、協働して学校運営にあたる体制を整えます。

## G 生徒会活動の活性化

- ① 「エル・プロジェクト」を実施します。  
「いのち、愛、人権」をテーマとした生徒会事業の企画・運営。発案から計画・実現、運営、アフターまで関わるリーダーの育成。
- ② 地域の人々との交流機会をもち、感謝の心を学ぶ活動として位置づけます。

## H 評価

- ① 学校評価から学校改善へのヒントを得、謙虚に受け止めます。
- ② 新学習指導要領完全実施にあたり、やる気を引き出す評価のあり方を研究する。

## I 自己研鑽

- ① 教育相談の視点を重んじ、生徒との信頼関係を第一に考え、悩みや不安を受け止め、導く教職員であるための自己研鑽に励みます。  
生徒の可能性を信じ、努力を認め、励まし、よりよい方向に導く教師を目指してコーチングについて学びます。
- ② 全教職員が、自己の取組とこのスクールビジョンを関連づけ、PDCAサイクルを生かし、目標達成と授業改善、学校改善につなげる。

## 式下の特色

